



司祭修養会

8月22〜26日(月〜金)、教区司祭および教区に準ずる宣教会を対象とした司祭修養会がサクラファミリアを会場に開催され、25人が参加した。

講師には、英・隆一朗神父(イエズス会・六甲教会)をむかえた。1995年に発表された教区の「新生計画」をもとに、現在の教会の振り返りから始まり、識別について、また「共同責任を担い、合い協働する教会」などをテーマに、全8回の講話が行われた。

司祭修養会は、2018年からは主に司祭の聖地巡礼か個人黙想の補助を行っていたが、一堂に会しての開催は4年ぶりとなる。コロナ禍により、司祭同士の交流の機会が減ってしまったことから、今回の開催となった。

4泊5日の期間を設けられた修養会は、日頃の司牧の中でコロナ禍の対応などに追われてきた司祭にとって、この2年間にふまえてきたから、これからの教会について考える機会となった。

「カテキズムの学び」は今月号はお休みにします(8月の講座中止のため)

クリスマス関連行事

毎年『大阪カトリック時報』12月号にクリスマス関連行事を掲載しています。つきましては、各小教区・各団体のクリスマス行事(一般公開されているもの)の情報提供をお願いします。

「コロナ禍により、計画を立てることが難しいところもあるかと思いますが、お分かりになる範囲でメールかFAXで、以下をお知らせいただければ幸いです。

【教会名】(記入者名・連絡先)【イベント名】【日時】【場所】【申込め切日】(※)【参加費】(※)【特記】(※対象など) (※は任意)

提出め切日: 2022年10月31日(月)
※掲載様式はこちらで統一させていただきます。
FAX 06-6946-3224
E-mail: info@osaka.catholic.jp

新しくなる典礼⑦「ミサ」が変わってしまうの?

『新しい「ミサの式次第と奉献文」の変更箇所』【最終回】
～ 2022年11月27日(待降節第I主日)からの実施に向けて～

【交わりの儀(コムニオ)]: 表題に「コムニオ」(communio)が加えられました。



「聖体拝領」というと、「ご聖体」をいただくことね。



ラテン語の「コムニオ」は、「交わり・一致」という意味があります。

- * 「主の祈り」の後、司祭の祈りのことばに続いて、会衆は次のことばをはっきりと唱えて祈りを結びます。「限りなく」は「永遠に」に変更されました。国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。
- * 司祭は「教会に平和を願う祈り」の後に、「あなたはまことのいのち、すべてを導かれる神、世々とこしえに。」と唱え、会衆は「アーメン」と答えます。
- * 平和のあいさつ
司祭: 主の平和がいつも皆さんとともに。
会衆: またあなたとともに。(現行: また司祭とともに から変更)
- * 平和の賛歌(アニュス・デイ): 口語に変更され、ラテン語の表題が加えられました。「主の平和」というあいさつのことばとの一貫性を考慮して、「平安」は「平和」に変更されました。最後に「平和をわたしたちに」で結びます。
世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに。
世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに。
世の罪を取り除く神の小羊、平和をわたしたちに。
- * 拝領前の信仰告白: 「者」が「人」に変更。
司祭: 世の罪を取り除く神の小羊。神の小羊の食卓に招かれた人は幸い。
- * 司祭の拝領: 司祭がキリストの御からだを拝領している間に、「拝領の歌」を始めます。
- 【閉祭】
- * お知らせ: 必要があれば、会衆への短いお知らせが行われます。
- * 派遣の祝福
司祭: 主は皆さんとともに。
会衆: またあなたとともに。
- * 閉祭のことば: 3種類のうちから選ぶことができます。(一例を挙げます)
司祭: (感謝の祭儀を終わります。)行きましょう、主の福音を告げ知らせるために。()内のことばは、状況に応じて省くことができます。
会衆: 神に感謝。

◎ミサの賛歌を歌唱する場合には、「典礼聖歌」203〜229番のミサの賛歌を当面用いることもできます。これまでの歌唱ミサの旋律も、今回の改定に伴い、一部が修正されます。また、新しい旋律のミサ曲が発表され、実施に向けて準備されています。

◎「ローマ・ミサ典礼書」規範版には、今回の改訂版の他に、多くの式文が掲載されています。これら残りの翻訳作業も順次行われ、典礼秘跡省に提出する準備が進められています。

(文・絵 大阪教区典礼委員会)

司牧者から若者たちへの一冊 若者の読書感想文募集

- ① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
- ② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
- ③ 感想を送ってくださった方全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈。たくさんの方の投稿をお待ちしています。

「生きる」―難民移住者

自然に培った「技術・人文知識・国際業務」

私は海外でエレベーターに閉じ込められた経験が二度あります。一度はアメリカで、もう一度はペルーで、いずれも私一人の時でした。ペルーではエレベーターに非常用ボタンがあり、私は怖くてボタンを何度も押ししました。すぐにガードマンが駆けつけ「大丈夫ですよ、すぐに開けますから怖でしかありませんでした。」



アメリカでは非常用電話があり、アパートの受付につながりました。私は救助を求めましたが、受付の人は「何言ってるかわからない」と言い、狼狽える私にただ無言でいるのです。と、自然に扉が開いたのでエレベーターを飛び出した私は受付へ向かい「ひどいじゃないか」と文句を言いました。が、「意味不明」と言われてしまいました。

要するに、言語の問題というより相手が「閉じ込められてえらいこっちゃ」と動く人だったかどうかの違いで、アメリカではたまたま冷たい人に当たっただけでアメリカに渡って日が浅い頃、ハンバーガー屋で「ポテト」と注文したら、店員はじつと私の目を見て、ニコリともせず「フレンチフライズ」と言い直して手渡したことがありました。私は力ウンターで「芋一つ」と言っていたのだと赤面しましたが、店員は笑わずに外国

ある人が私に送ったメッセージです。「私は鼻音いきました新雑だよ部です心配しないで私」は瞬間にこの一文を翻訳できるので。「私は仕事へ行きませんでしたし、大丈夫です、心配しないでください。」

何と高度な技術を身に着けたものよと私は自分に拍手しています。

(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス(緩和ケア)
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345

医療法人ガラシア会

カトリック墓地
納骨堂・納骨所
使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。ほか、インターネットでもご覧になれます。

資料請求やお問い合わせは
教区本部事務局
管理課 竹中まで
☎ 06-6941-9705